

審判講習会 参加報告書

平成 29 年 1 月 14 日

報告者 菅野 嵩大

この度参加しました、審判講習会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	第 34 回全関西中学生バスケットボール交歓大会
参加者 (報告者)	菅野 嵩大 (所属カテゴリー) クラブ連盟
期 日	平成 28 年 12 月 27 日 (火) から 平成 28 年 12 月 29 日 (木)
会 場	広島県立総合体育館
講 師	平育雄氏(日本バスケットボール協会指導委員)
参加者	
報告① レ 講義 レ 実技講習 □ ゲーム (該当に レ)	<p>レ講 義 講師 平 育 雄 氏 テーマ『2PO・3PO メカニクスの確認とより良いプレイを引き出すための判定力の向上』</p> <p>□実技講習 講師 氏</p> <p>□ゲ ー ム 主審 副審 コート主任 氏</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>1 グループで、トラベリングになりうるケースを実践する。 →そのプレイが本当に成立しているのかを見極める。</p> <p>2 PRAY→ルール→判定 の流れを知る →すべてはプレイを見ることから始まっている。しかし、プレイを経験だけで見てしまうと、ルールが抜けてしまう。だから、プレイを見て、ルールに照らし合わせて、判定をすることが大切。そのためにもバスケットのことをもっと知る。</p> <p>3 グループで 2 対 2、3 対 3 をしてインサイドのファールを判定する。 →審判役は、よい位置取りを考えて判定をする。プレイの始まりから見える位置取りをして、起こり得る現象に対して備える⇒active mind set</p> <p>4 active mind set が always moving につながる。 →常に良い位置を求めて動きつづけることが大切。毎回のプレイに対して必ず毎回準備を行うこと。</p> <p>5 バイオレーションとファールの判定 →ボールがあるところではバイオレーション・ファールは当然起こるが、ボールのないところでもファールは起こる。そのために 2 人の協力が必要になってくる。そして、良い位置取りをすることでオフボールのカッティングも見えてくるようになる。 そして、ボクシング・インでただ 10 人を見るだけではなくて、1 対 1、2 対 2、3 対 3 の関係を知った上で 10 人をとらえること。</p> <p>6 審判することを楽しむこと →ベンチ・プレイヤー・レフリー全員がバスケットを楽しむことが大切。決して敵ではない。</p>

<p>報告②</p> <p>□ 講義</p> <p>□ 実技講習</p> <p>レ ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>□講 義 講師 氏 テーマ『 』</p> <p>□実技講習 講師 氏</p> <p>レゲーム 主審：高嶋憲彰 氏 副審：菅野嵩大 主任 三島誠 氏</p> <p>京都精華 VS 柳井 (女子)</p> <p>■講習内容・ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ・ゲーム・カンファレンス <p>中学生女子のゲームではあるが、二人でしっかりと基準を作って悪い手の使い方などの判定をしていくことや、オールコートで当たってくる可能性の方が高いと思うので、二人でしっかりエリア分担をしていくことの確認をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任、パートナーからのアドバイス <p>二人の視野の当て方など協力はできていたが、リード時に右に行くタイミングについてはトレイルに任せても良い部分があった。そのせいで急いで戻ることにより、確認不足になっていることがあった。</p> <p>笛を吹くタイミングが曖昧なので、トラベリングかヘルドボールかなどが分かりづらい部分があった。本当にどちらのバイオレーションが成立しているかと言うことを見極めて判定することが大切。</p> <p>ゲームを通して手の使い方が悪いように感じたので、ゲームの入りやメンバーが変わったときにもっと基準を示していけば良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次への課題 <p>リード時に良いアングルを取ることで、相手レフリーの位置や見ているところまで確認することや、プレ・ゲーム・カンファレンスで見に行くタイミングの確認をしておくこと。</p> <p>スペースを的確に捉えることによって、ジャストなタイミングで笛を入れること。そのために、動いて良いスペースを捉える。</p>
<p>報告③</p> <p>□ 講義</p> <p>□ 実技講習</p> <p>レ ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>□講 義 講師 氏 テーマ『 』</p> <p>□実技講習 講師 氏</p> <p>レゲーム 主審 中村夏樹 氏 副審 菅野嵩大 主任 嘉戸裕之 氏</p> <p>柳井 VS 昭英 (女子)</p> <p>■講習内容・ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ・ゲーム・カンファレンス <p>お互いが前日に片方のチームのゲームを担当していたので、各チームの情報を共有することに加えて、悪い手の使い方や、リバウンドの跳び込みに対する準備して判定することの確認をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任、パートナーからのアドバイス <p>リード時の4番エリアの見方が、体と顔の向きが一致していないことが多々あったので、体と顔の向きを一致させることで、良いアングルが取れるのではないかと。そうすることによって、3番エリアと4番エリアの境のところからのプレイに対する準備も出来るようになる。</p> <p>トレイル時に、1番エリアから6番エリアに対するドライブが発生するときの予測が足りていないと感じる部分が何度かあった。</p> <p>少し前傾姿勢になってしまっているときがあるので、講習会でもあったように、もう少し全体を見て active mind set を行う。</p>

	<p>・次への課題</p> <p>前日での講習会でもあったように、プレイに対する準備というものがまだ不十分であるということがよく分かった。そういった準備をするために、リード時の顔と体の向きや、プレイの予測などを行うためのアングルの取り方、動き方に挑戦していく。</p>
<p>報告④</p> <p><input type="checkbox"/> 講義</p> <p><input type="checkbox"/> 実技講習</p> <p>レゲーム (該当に レ)</p>	<p>□講 義 講師 氏 テーマ『 』</p> <p>□実技講習 講師 氏</p> <p>レゲーム 主審 中村高之 氏 副審 菅野嵩大 主任 桑本 大貴 氏</p> <p style="text-align: center;">甲浦 VS 詳徳 (男子)</p> <p>■講習内容・ミーティング内容</p> <p>・プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <p>ゲームの入りでの悪い手の使い方を積極的に判定することで基準を作ることや、リードが右に動いた際の、トレイルとの視野の分担などのメカニックの部分についての確認をした。</p> <p>・主任・パートナーからのアドバイス</p> <p>3番エリアがお互いに少し遠くて、お互いにそこに目が当たっていることがあったので、トレイルがもう少し寄って視野の分担をするべきだった。</p> <p>2番エリアからのドライブの際に、プレイの終わりを覗き込むようにしてリングの下に入ってしまふケースが何度かあったので、ドライブに対しての予測・準備をしておくことでドライブが始まってから動き出すことがなくなって、良い位置で判定が出来る。</p> <p>・次への課題</p> <p>アドバイスの中でもあったように、ドライブに対しての見方が、予測が出来ていなくて遅れてしまっているケースがあったので、予測をすること。そのための、前回からの課題であるリード時のアングルの取り方や、視野の当て方をもっと工夫していく。</p>
<p>報告⑤</p> <p><input type="checkbox"/> 講義</p> <p><input type="checkbox"/> 実技講習</p> <p>レゲーム (該当に レ)</p>	<p>□講 義 講師 氏 テーマ『 』</p> <p>□実技講習 講師 氏</p> <p>レゲーム 主審 菅野嵩大 副審 古月遥 氏 主任 木村依美里 氏</p> <p style="text-align: center;">勝山 VS 広島選抜 (男子)</p> <p>■講習内容・ミーティング内容</p> <p>・プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <p>ペアの方がD級だったということもあり、マニュアルの基本的事項(責任範囲等)の確認や、見えたものをお互いに思い切って判定していくことなどの確認をした。</p> <p>・主任・パートナーからのアドバイス</p> <p>悪い手の使い方に対して、判定はしているがジャストなタイミングでの判定が少なかったことで、選手が悪い手の使い方をやめなかったのではないかと。声掛けも行ってはいたが、やめない場合には早めに判定をするべきである。</p> <p>視野の分担など、相手レフリーとの協力はできているが、自分の責任範囲にボールがあるときに少しボール中心になってしまっているときがあるので、状況によってはボール以外が重要になるケースもあるので、そこを見極めるべきである。</p> <p>足を使って、プレイを見に行くという姿勢はすごく伝わってきたので、それを続けて本当に良い位置というものを早く知り、身に付けること。</p>

	<p>・次への課題</p> <p>今大会の課題であったリード時のアングルの取り方は、自分自身では少し手ごたえがあったので、そこから重要なプレイを視野の中心に置くなど、プレイに対応した視野の当て方を勉強していくこと。</p> <p>ただ動くのではなく、良い位置を知るために目的を持って動くこと。</p>
<p>所感</p>	<p>私は、今回初めて中学全関西大会に参加させていただきました。中学生のゲームではありましたが、様々な県のトップチームが集まっており、普段感じる事のないレベルの高いゲームの経験を積ませていただいたことや、同年代から、ベテランの方、そして現役高校生などの様々な審判活動に取り組んでいる方々にお会いすることが出来て、すごく大きな刺激を受けました。また平氏の講義では、審判がもっとバスケットを知らなければいけないということや、実際に起こりうる事象について予測が必要という、ルールだけではなくプレイを知ることがすごく印象的で勉強になりました。</p> <p>最後になりましたが、今回このような大会に参加させていただく機会を与えていただきましたことに大変感謝致します。ついに『愛顔つなぐえひめ国体』の開催年になり、様々な準備が進んでいる中で、自分自身もさらにレベルアップしていかなければならないと感じております。今回の大会で学んだことや経験を積ませていただいたことを糧として、国体までにさらに成長していけるように、今後も努力していきたいと思っております。これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。</p>

※ 原文のまま、ホームページ等に掲載されます。

※ 用紙が足りない場合は、各自追加してください。